

たんぽぽ

一九七〇年秋

守屋一於

Kazuo
Moriya

Me
and
Dylan
at
Tampopo

旅に出て 誰かに出会い
ディランを聴いて また旅に出る
恋をして 歌い 路上をさまよう
旅立って行く者
旅立ちたくてもがく者
旅立つことを諦めた者
16歳の僕は たんぽぽで 見ていたんだ
不確かだ ぼんやりとした何かを



Do not go gentle into that good night,
Old age should burn and rave at close of day;
Rage, rage against the dying of the light.

Dylan Thomas

amazon.
熊本市内書店にて

9/15 発売開始

定価 1,760 円 (税込)

1970年、大阪万博が開催される中、よど号事件、安保闘争、ベトナム戦争、水俣病運動など、世の中はまだ騒然としていた。そんな中、16歳の僕は中津川での「第2回フォーク・ジャンボリー」へと初めての一人旅に出かけた。ヒッチハイクをしながら、駅で寝ながら、いろいろな人に出会い、何かに目覚めていった。旅から帰り、「たんぽぽ」で旅人の「部族」を知り、彼らにあこがれる。そしてみさきに恋をする。コンサートで歌い、京都や萩や奄美大島へと旅をするうちに、旅への思いはどんどんと膨らんでいくが、その一方で、徐々にみさきに物足りなさを感じ始め、その距離が開いていくのに悩み始める。箱根アフロディーテ、第3回全日本フォーク・ジャンボリー、ルート57ロック・フェス、そして横浜港で水死体で発見された林田。家を出て、部族のキリと旅立っていったユミ。旅立つ者と旅立っていない者、そして旅立たない者。再びピンク・フロイドの公演を観て、自分の中で生まれ始めた何かを感じるが、それはまだ、ぼんやりとした予感のようなものだけだった・・・

たんぽぽ
一九七〇年秋
Me
and
Dylan
at
Tampopo

守屋一於
Kazuo
Moriya



「守屋くんは詩人で小説家だったんだと50年以上たって気がつきました。天才はすぐそばにいたんだ！」
「この本を讀むとポップ・ディランや岡林信康が聴きたくくなります！」

